

新日本カレンダー株式会社 三田工場

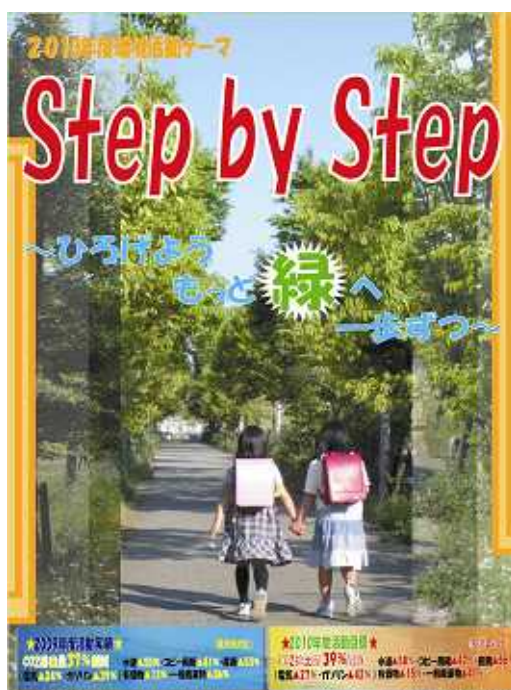
2010年度 (2010年4月~2011年3月)



エコアクション21
認定・登録番号0001814

環境活動レポート

2010年度 三田工場環境活動ポスター



活動テーマ 『Step by Step ~ひろげよう もっと緑へ 一歩ずつ~』



発行 2011年7月

ごあいさつ

2006年10月に環境方針を定め、翌年9月にエコアクション21の認証を取得しました当社三田工場の環境保全活動も早や4年が経ちました。

そうした中でカレンダー事業における生産・加工・出荷やペピー事業における出荷等、当社三田工場の事業活動が与える環境負荷の現状と環境活動の基本的な方針・改善への取組みを2010年度環境レポートとしてステークホルダーの皆様にご紹介させていただきます。



カレンダー・団扇



ペピー通販カタログ

10年は“今年の漢字『暑』”が表わすように観測史上過去最高の酷暑の中、電力使用量が増加し09年度まで連続削減を続けてきたCO₂排出量(05年基準年対比37%)も10年度は昨年対比4%増加(+15,142 kg-CO₂)という残念な結果に終わってしまいました。

又、年度末には未曾有の大災害となった東日本大震災が発生し全国で電力事情が逼迫している状況でも有り、11年度は更なる節電は勿論のこと電力使用時間の制限も積極的に検討していきます。

環境活動全般におきましては昨年発行されましたISO26000が求める持続可能な社会の実現の為に企業の社会的責任が益々重要になっていることを十分に認識した上で六甲グリーンベルト整備事業への参画やエコ検定合格者(エコピープル)の拡大等、環境社会貢献活動も推し進めながら環境方針に定める7つの環境目標達成に向け様々な活動の展開してまいります。

本報告書を通して当社の環境に対する取組みの考え方と日々取り組んでいる環境活動の現状とその成果を皆様にもご理解頂き、ご意見・ご感想を頂戴しながらより一層内容を充実させていく所存でございますのでこれからも変わらぬご理解とご支援をお願い致します。

最後に東日本大震災によりお亡くなりになられた方々に深い哀悼の意を表わすと共に被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

代表者

常務取締役 三田工場長 奥村 豊

環境方針

環境保全が経営・工場運営の重要課題である事を踏まえ、環境経営システムを構築・運用し、三田工場及び配送センター一丸となって自主的・積極的に環境保全活動に取り組めます。

三田工場及び配送センターのカレンダー・団扇の製造及び出荷、ペット用品通信販売の出荷の事業活動における環境負荷低減の為、行動指針を次のように定めます。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
2. 以下について具体的な環境目標を定め、実施計画を立てて、継続的改善に努めます。

低炭素社会実現のため二酸化炭素削減（省エネルギー）

環境に配慮した製品の開発・生産と設備増強

廃棄物等、排出量の削減

省資源化の推進（含む節水）

輸送に関わる環境配慮

社外の環境保全、啓蒙活動への積極的な参画

物品全般におけるグリーン調達推進

三田工場及び配送センターで働く全ての従業員にこの環境方針を周知します。

2006年10月16日制定

（2011年7月13日改定）

常務取締役 三田工場長 **奥村 豊**

組織の概要

(1) 事業者名及び代表者

新日本カレンダー株式会社 三田工場
常務取締役 三田工場長 奥村 豊

(2) 所在地

本社 大阪府大阪市東成区中道3丁目8番11号
東京支店：東京都千代田区神田神保町3-7-1 ニュー九段ビル8F
九州支社：福岡県福岡市博多区店屋町7番7号
名古屋支社：愛知県名古屋市昭和区長池町3-24
三田工場：兵庫県三田市テクノパーク5-9
鹿児島配送センター：鹿児島県鹿児島市小山田町6496番地
北関東カレンダー物流センター：栃木県真岡市久下田803番地1
丸亀工場：香川県丸亀市前塩屋町1丁目2-27

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

| | |
|----------------------|------------------|
| 代表者 工場長：奥村 豊 | TEL：079-568-3344 |
| 責任者 副工場長：山見 隆史 | TEL：同上 |
| 担当者 生産管理2部：高田 真由美 | TEL：同上 |
| 生産管理課：西川 英利 | TEL：同上 |
| 商品管理課：岡 達也 | TEL：同上 |
| 鹿児島配送センター：西 美樹 | TEL：099-238-5856 |
| 北関東カレンダー物流センター：新山 幸雄 | TEL：0285-73-1610 |

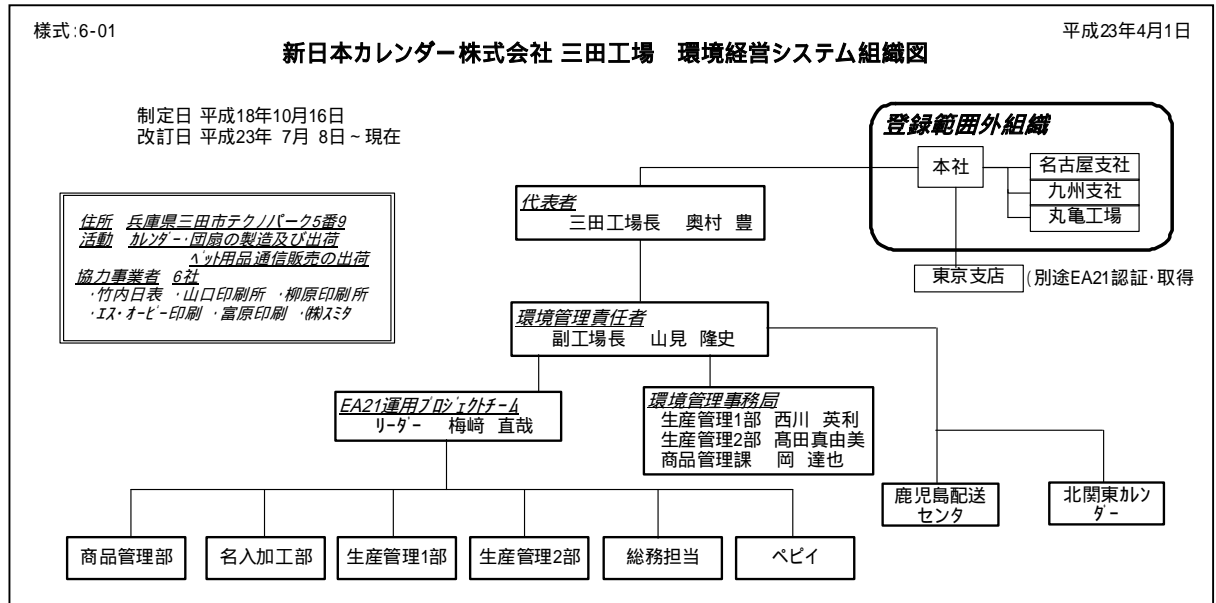
(4) 事業概要

本社：カレンダー・団扇及び販促ツールの企画・営業活動拠点
ペット用品通信販売の企画・営業活動拠点
東京支店・九州支社・名古屋支社：
カレンダー・団扇及び販促ツールの営業活動及び出荷拠点
三田工場・鹿児島配送センター・北関東カレンダー物流センター：
カレンダー・団扇の製造及び出荷拠点、ペット用品通信販売の出荷拠点
丸亀工場：ペット用品通信販売の出荷拠点

(5) 事業の規模

| | |
|----------------------|-----------------------|
| 三田工場：製品出荷額 | 57億円/年（基準年05年：62億円/年） |
| 従業員 | 127名（内、協力事業者4社16名） |
| 延べ床面積 | 17,054 m ² |
| 鹿児島配送センター：製品出荷額 | 三田計上分に含む |
| 従業員 | 2名 |
| 延べ床面積 | 1,373 m ² |
| 北関東カレンダー物流センター：製品出荷額 | 三田計上分に含む |
| 従業員 | 6名（内、協力事業者1社3名） |
| 延べ床面積 | 3,121 m ² |

(6) 環境管理体制



(7) 環境経営システム構築状況

東京支店が11年08月に認証・登録、鹿児島配送センター・北関東カレンダー物流センターが11年の三田工場更新審査時に拡大認証・登録予定。登録範囲外組織についても、順次、認証・登録の準備に取り掛かっており、15年を目処に全事業所の認証・取得を目標に構築を進めている。

主な環境負荷の実績

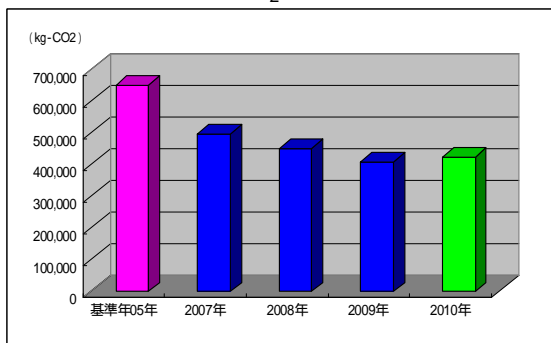
三田工場

電力のCO₂排出指数・・・0.378

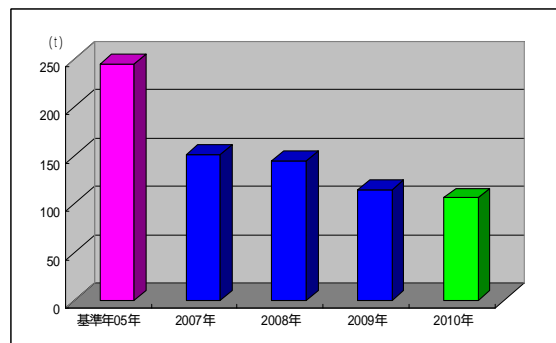
| 項目 | 単位 | 2010年 | | 2005年(基準年) |
|---------------------|------------------------|---------|--------|-------------|
| CO ₂ 排出量 | kg-CO ₂ / 年 | 422,625 | 34.9% | 648,853 |
| 化学物質保管・排出・移動量 | kg / 年 | 283.7 | 71% | 989.7 |
| (保管量) | | (30.5) | (67%) | (91.4) |
| (排出量) | kg / 年 | (243.1) | (72%) | (875.7) |
| (移動量) | | (10.1) | (56%) | (22.7) |
| 産業廃棄物排出量 | t / 年 | 106.2 | 56.7% | 244.9 |
| 一般廃棄物排出量 | t / 年 | 5.9 | 33.9% | 8.6 (2007年) |
| (単純焼却一般廃棄物排出量) | t / 年 | (4.2) | (+27%) | (3.3) |
| (再生利用一般廃棄物排出量) | | (1.5) | (72%) | (5.3) |
| 総排水量 | m ³ / 年 | 1,513 | 56.0% | 3441 |

主な環境負荷の推移 (基準年・活動初年度・活動2年目・活動3年目・活動4年目)

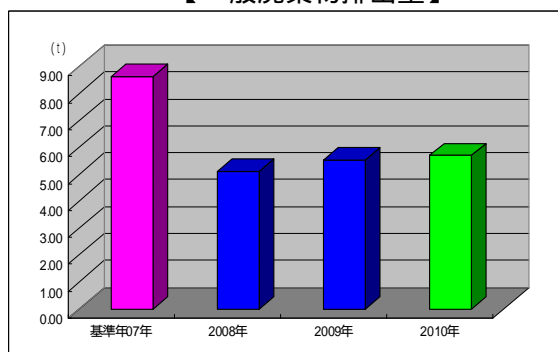
【CO₂ 排出量】



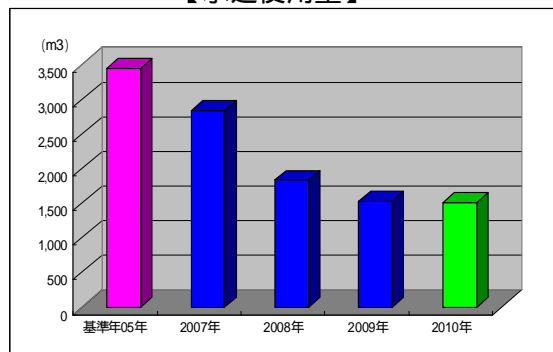
【産業廃棄物排出量】



【一般廃棄物排出量】



【水道使用量】



鹿兒島配送センター

電力のCO₂排出指数・・・0.369

| 項目 | 単位 | 2010年(基準年) |
|---------------------|-----------------------|------------|
| CO ₂ 排出量 | kg-CO ₂ /年 | 21,785 |
| 化学物質保管・排出・移動量 | kg/年 | 0 |
| （保管量） | | (0) |
| （排出量） | kg/年 | (0) |
| （移動量） | | (0) |
| 産業廃棄物排出量 | t/年 | 1.12 |
| 一般廃棄物排出量 | t/年 | 0.4 |
| （単純焼却一般廃棄物排出量） | t/年 | (0.4) |
| （再生利用一般廃棄物排出量） | | (0) |
| 総排水量 | m ³ /年 | 計量不可 |

北関東カレンダー物流センター

電力のCO₂排出指数・・・0.339

| 項目 | 単位 | 2010年(基準年) |
|---------------------|-----------------------|------------|
| CO ₂ 排出量 | kg-CO ₂ /年 | 32,800 |
| 化学物質保管・排出・移動量 | kg/年 | 28.8 |
| （保管量） | | (0) |
| （排出量） | kg/年 | (28.8) |
| （移動量） | | (0) |
| 産業廃棄物排出量 | t/年 | 1.65 |
| 一般廃棄物排出量 | t/年 | 0.675 |
| （単純焼却一般廃棄物排出量） | t/年 | (0.675) |
| （再生利用一般廃棄物排出量） | | (0) |
| 総排水量 | m ³ /年 | 301 |

環境目標及びその実績

三田工場

| 年度 項目 | 2005年 | | 2007年 | 2010年 | | 2011年 | 2012年 | |
|--------------|-------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|----------------|---------------------|---|------------------------------------|---------------------|
| | (基準年度) 2月～翌1月 | | | (目標) 4月～翌3月 | (実績) 4月～翌3月 | (目標) 4月～翌3月 | (目標) 4月～翌3月 | |
| 二酸化炭素の削減 | 二酸化炭素の削減 | kg-CO ₂ | 648,853 | | 393,775 (39.3%) | 422,625 (34.9%) | 395,530 (39%) | 387,359 (40.3%) |
| | 電力の削減 | 使用量 (kwh) | 1,401,073 | | 1,023,000 (27%) | 1,097,571 (22%) | 1,027,000 (27%) | 1,006,000 (28%) |
| | ガソリンの削減 | 使用量 (L) | 5,222 | | 3,050 (42%) | 3,281 (37%) | 3,100 (41%) | 3,000 (43%) |
| 環境配慮型製品開発・生産 | 再生材料使用アイテム増(団扇骨) | 総数(本) | 541,000 (非再生 G 骨 2,054,236) | | 全数100%へ | 2,178,390 (非再生 G 骨 107,284) | 全数100%へ | 全数100%へ |
| | 再生材料使用アイテム増(再生紙使用カレンダー) | 総数(点) | 102 | | 125 (+23%) | 110 (+8%) | 115 (+13%) | 120 (+18%) |
| | 再生材料使用アイテム増(エコ製本) | 総数(点) | 34 | | 68 (+100%) | 68 (+100%) | 72 (+111%) | 72 (+111%) |
| | その他 | カンダ - 名入うちのカーボンオフセット化 前年度残品の再生利用 | | | 継続 | カーボン: カンダ - うちの共採用、 再生: 3点継続 | 継続 | 継続 |
| 廃棄物の削減 | 一般廃棄物の削減 | 総量 (t/年) | | 8.6 | 5.1 (41%) | 5.7 (34%) | 3.32 (61%) | 3.0 (65%) |
| | 産業廃棄物の削減 | 総量 (t/年) | 245 | | 108 (56%) | 106 (57%) | 101 (59%) | 96 (61%) |
| | 有価物の削減 | 総量 (t/年) | | 539 | 460 (15%) | 464 (14%) | 460 (15%) | 450 (16%) |
| 省資源 | コピー用紙使用量削減 | 使用量 (枚) | 346,000 | | 201,000 (42%) | 195,000 (44%) | 192,000 (45%) | 190,000 (45%) |
| | 節水 | 総量 (m ³ /年) | 3,441 | | 1,450 (58%) | 1,513 (56%) | 1,490 (57%) | 1,460 (58%) |
| | 環境配慮型製品購入拡大 | 購入品全般 見直(アイテム) | | 55 (2008年) | 63 (+15%) | 67 (+22%) | 68 (+24%) | 70 (+27%) |
| 運送 | 鉄道輸送・チャーター便の確保(減少の歯止め) | 総数(台) | 653 | | 580 (11%) | 560 (14%) | 560 (14%) | 540 (17%) |
| 環境保全 | 社外ボランティア活動 | 社外ボランティア活動への参画 (2009年度チーム立上げ) | | | 新規活動実施 | 六甲グリーンパ ル整備(9月) 緑の環境クラ ブ定期活動 実施(2月) | 六甲グリーンパ ル整備年間2 回実施・参加 者増員 | 年間活動の 拡大継続 |
| | 地域への環境配慮 | 毎月のテクノクリーンデーへの参加 | | | 実施 | 実施(毎月) | 実施 | 実施 |
| | | 年2回の拡大クリーンデーへの参加 | | | 実施(6.12月) | 実施(6.12月) | 実施 | 実施 |
| | | 工場クリーンデーの開催(8月) | | | 実施 | 実施(8月) | 実施 | 実施 |

事業決算は1月であるが 2・3月は当年度製品見本の製作がピーク時期と重なるため、

承認登録月が9月であるため、2009年度以降は環境活動の取りまとめは4月～翌3月の1年間とする

鹿児島配送センター

| 項目 | | 年度 | | 2010年 | 2011年 | 2012年 |
|----------|-------------|------------------------------|--|------------------|-------------------|-------------------|
| | | | | (基準年度) 4月～翌3月 | (目標) 4月～翌3月 | (目標) 4月～翌3月 |
| 二酸化炭素の削減 | 二酸化炭素の削減 | kg-CO ₂ | | 23,416 | 19,524 (17%) | 19,069 (19%) |
| | 電力の削減 | 使用量 (kwh) | | 33,262 | 28,000 (16%) | 27,000 (19%) |
| | ガソリンの削減 | 使用量 (L) | | 2,626 | 2,500 (5%) | 2,500 (5%) |
| | 軽油の削減 | 使用量 (L) | | 481 | 450 (6%) | 440 (9%) |
| | 灯油の削減 | 使用量 (L) | | 480 | 400 (17%) | 380 (21%) |
| 廃棄物の削減 | 一般廃棄物の削減 | 総量 (t / 年) | | 0.4 | 0.3 (25%) | 0.25 (38%) |
| | 産業廃棄物の削減 | 総量 (t / 年) | | 1.12 | 1 (11%) | 0.9 (20%) |
| | 有価物の削減 | 総量 (t / 年) | | 1.1 | 1.5 (+36%) | 1.3 (+18%) |
| 省資源 | コピー用紙使用量削減 | 使用量 (枚) | | 800 | 400 (50%) | 400 (50%) |
| | 節水 | 総量 (m ³ / 年) | | 計量不可 | - | - |
| | 環境配慮型製品購入拡大 | 購入品全般見直 (購入目標・基準の立案・実施) | | 購入品のエコ製品転換 | 購入品のエコ製品転換 | |
| 保全 | 地域への環境配慮 | 工場周辺の清掃活動 | | 実施 | 実施 | |

事業決算は1月であるが 2・3月は当年度製品見本の製作がピーク時期と重なるため、承認登録月が9月であるため、環境活動の取りまとめは4月～翌3月の1年間とする

北関東カレンダー物流センター

| 項目 | | 年度 | | 2010年 | 2011年 | 2012年 |
|----------|-------------|-----------------------------|--------|------------------|------------------|-------|
| | | (基準年度) 4月～翌3月 | | (目標) 4月～翌3月 | (目標) 4月～翌3月 | |
| 二酸化炭素の削減 | 二酸化炭素の削減 | kg-CO ₂ | 36,462 | 32,870 (10%) | 32,151 (12%) | |
| | 電力の削減 | 使用量 (kwh) | 93,898 | 84,500 (10%) | 82,600 (12%) | |
| | ガソリンの削減 | 使用量 (L) | 417 | 400 (4%) | 400 (4%) | |
| 廃棄物の削減 | 一般廃棄物の削減 | 総量 (t/年) | 0.675 | 0.6 (11%) | 0.58 (14%) | |
| | 産業廃棄物の削減 | 総量 (t/年) | 1.65 | 1.57 (5%) | 1.52 (8%) | |
| | 有価物の削減 | 総量 (t/年) | 11.7 | 11.1 (5%) | 10.8 (8%) | |
| 省資源 | コピー用紙使用量削減 | 使用量 (枚) | 10,000 | 9,000 (10%) | 8,000 (20%) | |
| | 節水 | 総量 (m ³ /年) | 301 | 286 (5%) | 277 (8%) | |
| | 環境配慮型製品購入拡大 | 購入品全般見直 (購入目標・基準の立案・実施) | | 購入品のエコ製品転換 | 購入品のエコ製品転換 | |
| 保全 | 地域への環境配慮 | 工場周辺の清掃活動 | | 実施 | 実施 | |

事業決算は1月であるが 2・3月は当年度製品見本の製作がピーク時期と重なるため、承認登録月が9月であるため、環境活動の取りまとめは4月～翌3月の1年間とする

環境活動の取組み状況と評価

| 事務局活動実績 | | |
|---------|--|--|
| 日付 | 活動実績 | 評価(結果と今後の方向) |
| 10年4月 | 第1回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催 (奥村・山見・事務局3名・ Aチーム2名・Bチーム2名・Cチーム3名・Dチーム3名・Eチーム2名 計17名) | 活動開始から4年目を迎える10年度は、事務局メンバーを1名増員し、3名体制で活動を行った。毎月のプロジェクトミーティングの準備・全体研修会・中間審査など定型となった活動はもとより、3名体制となったことで、今までなかなか着手できなかった、持込ゴミ持ち帰り実態調査・他社の工場見学・エコ検定受験者増員活動などにも取組み、また東京支店・KCBセンターのEA21取得のサポート・内部監査講習など、新たな活動にも取り組むことが出来た。11年度は、全事業所取得に向けたサポート強化を行いながら、内部監査運営など新たな活動も取入れ、工場全体の活動・意識のレベルアップを継続していく。 |
| 10年5月 | 第2回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催 「環境の日」の持込ゴミ持ち帰り実態調査実施 緊急事態対応訓練の実施(避難訓練・消火訓練)(5/26) 東京支店にてEA21説明会実施(5/27) | |
| 10年6月 | 第3回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催 2010年度EA21全体研修会実施(6/17・6/18) マロニー工場見学(6/22) 「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」提出 | |
| 10年7月 | 第4回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催 緊急事態対応訓練の実施(低圧漏電時の対応・汚水処理設備自動停止時の対応・異常水発生時の対応)(7/2) エコ検定受験36名(7/25) 中間審査(7/28・30) | |
| 10年8月 | 第5回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催 2010年度EA21運用プロジェクトポスター掲示 EA21新人研修実施(8/31) | |
| 10年9月 | 第6回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催 | |
| 11年1月 | 第7回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催 | |
| 11年2月 | 第8回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催 東京支店申請資料作成サポート(2/8) KCBセンター申請準備(2/9・10) | |
| 11年3月 | KCBセンター協力会社への協力依頼 内部監査講習受講(3/31) | |

各チーム活動内容

- Aチーム：電力の削減
- Bチーム：コピー用紙・ガソリンの削減
- Cチーム：産業廃棄物の削減
- Dチーム：一般廃棄物・有価物の削減
- Eチーム：社外への環境保全活動



避難・消火訓練



内部監査講習



全体研修会

本年度環境目標・活動計画と評価

| | 目標 | 達成手段 | 達成状況 | 評価(結果と今後の方向) |
|----------|---|---|---|--|
| 二酸化炭素の削減 | 電力の削減 基準年 1,401,073kwh 2010年度 1,097,571kwh(22%) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 蛍光灯の変更(3,500本) (40w 36w)順次交換 ・ 冷暖房の温度設定見直し (区画毎に再設定) ・ 蛍光灯の消灯 ・ 蛍光灯点灯図の掲示 ・ 待機電力の削減 ・ 蛍光灯間引き ・ ペピイ加工場仕切り取付 ・ 運用状況見回り | <ul style="list-style-type: none"> ・ 10年度年間で約18% を36wに交換済(07年度~4年間で全体の約61%変更済) ・ 各フロア、区画毎に冷暖房の設定温度・使用状況、室温の見回りを実施し、全体朝礼にて告知、全設定箇所の設定温度・使用可湿度・切温度の見直し改善済 ・ 見回りチェックリスト修正(7月) ・ 各フロア蛍光灯不在時消灯状況の見回り・全体朝礼にて呼掛け ・ 1Fペピイ出荷場の消灯 ・ 食堂 蛍光灯スイッチパネル横に点灯図を掲示(6月) ・ OA・物流のドットプリンター未使用時コンセント・電源 off の実施 ・ 3F仕分場の夏季蛍光灯間引継続(36w24本)(08年度継続) ・ 3Fペピイ加工場に仕切り取付、暖房効率アップ ・ 設定温度・照明・手元スイッチ等の運用状況の見廻り、違反箇所への指導 | 電力削減目標27%削減に対し22%削減。 (目標 1,023,000kwh に対し1,097,571kwh) 10年度は目標値まで使用電力を削減することが出来なかった。これは、ほぼ夏季の気象状況が昨年よりも厳しくなったことに起因すると考えられる。活動としては、温度設定遵守の為の広報活動・毎月の見回り、各フロアの消灯確認など継続活動を確実に実行してきた。また新たな取組みとして、ペピイ加工場に仕切りを設け、冷暖房の効率アップを図ったり、食堂のスイッチパネル横に点灯図を掲示するなど、電力削減の為の具体的な活動と啓蒙活動を行った。 11年度は、フロアによる温度設定見直し・更に細かい照明 OFF 呼びかけなど、今まで以上の啓蒙活動と一部部署の休憩時間を変更することで、電力ピークの平準化を行い、更なる節電を図っていく。 |
| | ガソリンの削減 基準年 5,222L 2010年度 3,281L(37%) | <ul style="list-style-type: none"> ・ フォークリフトのバッテリー化継続 ・ エコドライブの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 繁忙期、カソリン車4台 ガソリン車2台・バッテリー車1台へ変更 ・ 社用車2台中1台へ燃費計の設置(5月) ・ 本社往復時の記録開始、今後基準値を決定(7月) | ガソリン削減目標42%削減に対し37%削減。 (目標 3,050L に対し3,281L) 繁忙期のバッテリー車減台によりガソリン車の使用頻度が上がり、リフトでのガソリン使用量が増加した。社用車では、燃費計の設置・燃費の見える化を行うことで、燃費効率が上昇し、社用車でガソリン使用量は13%削減できた。11年度は燃費計の増台とエコドライブの為の具体的な手段を使用者に伝え、ゲーム感覚も取り入れて、更なる燃費向上を図り、ガソリン使用量を削減する。 |

| | | | | |
|----------------------|--|---|---|--|
| 運送に関わる環境配慮 | <p>鉄道輸送・チャーター便の確保（減少歯止め）</p> <p>基準年 653台 2010年度 560台（14%）</p> | <ul style="list-style-type: none"> 得意先・営業への大口出荷拡大アナウンス | <ul style="list-style-type: none"> 13t車利用拡大は積極的に運用継続 | <p>鉄道輸送・チャーター便出荷台数目標11%減少迄に対し14%減少。</p> <p>得意先・受注の状況により、減少傾向が続くが、得意先・営業への大口出荷継続のアナウンスと手配部署の大口出荷利用意識を継続していく。</p> |
| 環境に配慮した製品の開発・生産と設備増強 | <p>再生材料使用品のアイテム増（再生団扇骨）</p> <p>基準年 541,000本（非再生G骨2,054,236本） 2010年度 全数再生団扇骨へ</p> | <ul style="list-style-type: none"> 非再生G骨全てエコマーク骨へ移行継続 | <ul style="list-style-type: none"> 2011年度団扇骨全数エコマーク骨で発注済 | <p>今年度も団扇製作予定数228万本全数エコマーク骨継続予定であったが、客先指定の非エコマーク骨約11万本（環境配慮材）を製作。客先指定以外は全数エコマーク骨で製作。</p> |
| | <p>再生材料使用品のアイテム増（再生紙）</p> <p>基準年 102点 2010年度 110点（+8%）</p> | <ul style="list-style-type: none"> 再生紙使用のアイテム拡大継続 無塩素漂白再生紙の使用拡大 植林木・森林認証材の使用拡大 エコ間伐材使用のアイテム採用 | <ul style="list-style-type: none"> 2011年度再生紙使用のアイテム数107点で決定（10年度111点） 2011年度無塩素漂白再生紙81点使用決定 2011年度植林木（80点）・森林認証材（98点）の使用決定 エコ間伐材使用新規1点採用決定 | <p>今年度目標125点に対し110点（14点減・達成率89%）再生紙の使用に加え、森林認証材・植林木の配合紙使用も08年度より継続。</p> |
| | <p>再生材料使用品のアイテム増（エコ製本）</p> <p>基準年 34点 2010年 68点（+200%）</p> | <ul style="list-style-type: none"> エコ製本のアイテム拡大 エコ製本の名入設備開発継続し、本番エコ化推進 輪転月表エコ製本のアイテム増 | <ul style="list-style-type: none"> 10年度エコ製本10点増加（09年度58点） 名入加工部カプリ3台をエコプレス対応可能に改造済（4/6台完了） 輪転月表でエコ製本製品3点増加（NK180・181・185） | <p>今年度目標68点に対し68点（10点増・達成率100%）名入加工部カプリのエコプレス対応改造3台追加。（全6台中4台対応済）月表製本課エコプレス機の製本数増加を行い、対応力を強める。</p> <p>11年度エコプレス品番昨対1点の67点。（廃盤3点新規2点）</p> |
| | その他 | <ul style="list-style-type: none"> カレンダーのカーボンオフセット化拡大 うちのカーボンオフセット化継続（2009年度～） 前年度カレンダー残品によるリサイクル再生紙の抄造拡大 SOYインクに変わる環境対応インクの検討と変更 | <ul style="list-style-type: none"> 09年度6点 10年度7点へ（1点増） 10年度名入れうちわ1.5t（8,574本）受注 当社前年度残品用紙のリサイクル再生紙を使用製品3点継続（NK68・197・457） ヘッダにもマニラ台紙残品のリサイクル再生紙を使用 米国大豆協会ソイシールの2011年9月使用期限に備え、印刷インキ工業連合会へベジタブルインキの使用登録完了、協力各社へもベジタブルインキの登録確認・依頼済 | <p>2010年度カレンダーのカーボンオフセット対象製品を09年度対比1点増の7点へ（月表6点・卓上1点）内、輪転月表も2点採用。</p> <p>2010年度、カレンダーリサイクル商品も3点継続。</p> <p>2011年度環境貢献型カレンダー（OISCA）4点採用決定。</p> |

| | | | | |
|---------------|--|---|---|---|
| | <p>一般廃棄物の削減 基準年 8.6t 2010年度 5.7t(34%)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ペットフードの再資源化 ・ペットフードの新規引渡し ・分別状況見回り ・業者との契約引取量見直し(可燃ゴミ) ・契約引取分の実計量化(可燃ゴミ・ペットボトル) ・「環境の日」の持込ゴミ持ち帰り継続 ・エコキャップ回収運動 ・紙コップ使用量調査 | <ul style="list-style-type: none"> ・ペットフードの田中飼料(株)持込継続(8月) ・賞味期限が近いペットフードの新規引渡し開始(ペットフードの廃棄量0へ) ・各課分別状況の現場パトロール実施(4・5月) ・繁忙期契約引取量の再計量・再契約(9月) ・閑散期契約引取量の再計量・再契約(1月) ・可燃ゴミ・ペットボトルを契約量引取から毎月実計量へ(9月～) ・毎月21日工場内「環境の日」に持込ゴミ持ち帰り継続 ・全体朝礼で呼掛け継続 ・送付実績公開(三田市で1位に) ・紙コップ・紙パック使用量の前年度比較調査実施(5月) | <p>一般廃棄物削減目標41%削減に対し34%削減(目標5.1tに対し5.7t) 毎月の朝礼での、マイコップ使用の呼びかけ・エコキャップ送付状況報告・環境の日の持込ゴミ持ち帰り継続など、従業員への周知活動をこまめに行ってきた。10年度はペットフードの廃棄量が大量になってしまい目標クリアが出来なかったものの、可燃ゴミ・ペットボトルで業者との引取量の契約を、サンプル計量から実計量に変更し、より正確な数字把握が可能となった。11年度は、新たな活動として、ペットボトルの持ち帰り運動・マイ箸利用運動を行っていく。またペットフードの廃棄はなくなる見込みである。</p> |
| <p>廃棄物の削減</p> | <p>産業廃棄物の削減 基準年 245t 2010年度 106.2t(57%)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・カレンダー残品の減量(減量と再利用) ・完成品残品の削減(金具廃棄削減) ・プラスチック圧縮機の設置検討 ・有価物紙ゴミ分別の拡大 ・洗濯ウエスの使用拡大(ウエスの再利用) ・廃棄物の再利用 ・産廃ゴミ箱の運用 | <ul style="list-style-type: none"> ・NK364封筒、NK520～522フレーム・封筒、NK481プラハンガー・化粧箱、NK474リングを従来通り再利用継続(1月) ・カレンダー残品量を基準年対比44%削減(基準年75万冊、09年対比10%増) ・稟議書作成(4月) ・産廃ラップの有価物化検討のため一時設置見送り ・物流の産廃紙ゴミを分別して有価紙ゴミ化継続、新たに生産管理・名入加工部へも設置 ・使用済ウエス回収箱を各階に設置(5月) ・新たに1F印刷場でも使用開始(8月～) ・物流で一部売り用の剥離セロハンを詰め物に再利用開始(6月～) ・1Fペパイ商品入荷時の緩衝材を物流で再利用開始(6月～) ・工場全体の産廃ゴミ箱設置状況確認 ・産廃ゴミ箱・表示板の修復・交換を実施(8～12月) | <p>産業廃棄物削減目標56%削減に対し57%削減達成(目標108tに対し106.2t) 産廃紙ごみの有価物化を進める為、専用BOXの設置箇所を増やし、徐々にその効果が表れている。また、洗濯ウエスの利用促進を図り、利用可能な部署に対し、限定的な使用であっても、その使用を進め、洗濯ウエスの利用頻度を高めることで、廃棄ウエスの削減が出来た。</p> <p>11年度は、廃プラスチック類の大部分を占めるラップを分別し、有価物化できる方法の検討を進めていく。</p> |

| | | | | |
|---|--|--|--|---|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(廃棄物の削減)</p> | <p>有価物の削減 基準年 539t 2010年度 464t (14%)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・カレンダー残品の減量 (減量と再利用) 継続 ・有価物内訳調査と計量・処分方法についての知識向上 ・カレンダー印刷用白紙用紙サイズの縮小継続 (余白部分の削減) ・ダンボールの削減 | <ul style="list-style-type: none"> ・残品一丁バラ上質系を断裁しペピイで再利用 (12,000 枚) ・日商紙業引取り分 09 年・10 年の内訳調査 ・日商紙業で処理機械にかける際、カゴからシテを取り出し上質・コートを分別して再計量 ・SNC IJフット M 四六<70><69>へ、<90><89>へ ・NPI エンボスヌノメ四六<110><108>へ ・NC 用紙 PEFC<84><82.5> ・上記用紙 4 種で年間使用量約 6,500KR (7.2 t) の削減 ・ペピイの特定廃棄予定ダンボールの物流ケース緩衝材への代替 | <p>有価物削減目標 15%削減に対し 14%削減。 (目標 460 t に対し 464 t) 10 年度は、ペピイの特定廃棄予定ダンボールの物流ケース緩衝材への利用を推し進め、相当量のダンボールを再利用することが出来た。 産廃の有価物化を進める中で、有価物の増加を避けるのは困難であるが、今までの活動を基本に、こまめな活動を継続していく。</p> |
| | <p>省資源化の推進</p> | <p>節水 基準年 3,441 m³ 2010 年度 1,513 m³ (56%)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・最低限前年度数値の維持 | <ul style="list-style-type: none"> ・前年度以前の活動を継続 |
| | <p>コピー用紙使用枚数削減 基準年 346,000 枚 2010 年度 195,000 枚 (44%)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・印刷物の残紙利用拡大 ・オフコン連帳用紙・使用済ペピイピックアップリストの断裁、コピー用紙として再利用拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ・輪転ロス用紙の裏紙使用決定 (8 月) ・残品一丁バラ上質系 12,000 枚を断裁しペピイ裏紙として使用 (1 月) ・月表製本課より 5,500 枚を残紙利用へ (1 月) ・上記残紙も含め、10 年度は 18 万 7 千枚を裏紙として使用 (09 年対 + 8 千枚) | <p>コピー用紙使用量削減目標 42%削減に対し 44%減達成 (201,000 枚 に対し 195,000 枚) 新たに輪転ロス用紙を断裁し使用や、残品一丁バラを断裁し使用など、使用方法が限られるものであっても、再利用を促進し、更に裏紙の確保につなげることが出来、新品用紙の購入量削減につなげている。 あわせて、N-UP の利用拡大など、使用者の削減意識を高める活動を進めていく。</p> |

| | | | | |
|---|---|--|--|--|
| 省 資 源 化 の 推 進 | グリーン商品購入 基準年(2008) 55点 2010年度 67点(+22%) | 環境配慮型製品の購入拡大 | 新購入品を中心に6点増加 済(リングファイル・コンソール・ マグネットフック・額縁・電卓・ア ルカリ乾電池) | 今年度目標15%増に対し 22%増加達成(6点増・ 達成率106%) 商品購入時のグリーン購 入意識が高まっている。 |
| 社 外 環 境 保 全 ・ 啓 蒙 活 動 へ の 参 加 | 社外環境ボランテ ィア活動への参画 | <ul style="list-style-type: none"> ・六甲グリーンベルト整備事 業への参画 ・「緑の環境クラブ」定期活 動への参画 | <ul style="list-style-type: none"> ・六甲砂防事務所「森の世 話人」活動支援事務局と 活動規模・活動地につい ての打合せ(5月) ・活動候補地3箇所視察 活動地決定(6月) ・「森の世話人」登録書類 提出(8月) ・「森の世話人」登録完 了・登録証交付(8月) ・活動支援事務局を經由し 六甲砂防事務所へ活動計 画書を提出(9月) ・全体朝礼・環境掲示板で の参加呼び掛け・募集 ・活動実施(長田区活動 地)参加者10名(9月) ・六甲砂防事務所(活動事 務局経由)へ提出する「活 動報告書」の作成(9月) ・全体朝礼にて活動報告及 び環境掲示板への報告書 の掲示(10月) ・活動地に建てる看板の位 置等現地確認(12月) ・11年度六甲グリーンベ ルト整備事業「年間計画 書」作成・提出・受理 (1月) ・活動地名申請「NK の森」に決定(1月) ・六甲砂防事務所HP掲載 用会社案内・9月の活動 報告を事務局へ提出 HPへ掲載(3月) ・「緑の環境クラブ」事務 局へ1月以降の活動予定 を確認(1月) ・「緑の環境クラブ」の2 月の活動予定への参加決 定(2月) ・全体朝礼にて活動日・内 容の告知と参加希望者募 集(2月) ・活動実施(有馬富士公園 下草刈)参加者7名 (2月) ・「緑の環境クラブ」へ法 人会員入会手続完了 (2月) | <p>09年度に第一回目の活動 を行い、10年度はその活 動を更に大きく・見える形 に広げていくことが出来 た。「緑の環境クラブ」活 動の継続では、7名が参 加。新たに六甲グリーンベ ルト整備事業に参画し、各 種手続きを行った上で、第 一回目の活動を実施。参加 者も10名と最多をほこ り、計画的な活動であるこ とからも、年2回の活動 を継続して行っていく。 11年は、参加経験者を更 に増やす為、参加者募集・ 決定方法に工夫を凝らし、 2種類の活動で、より多く の従業員が社外環境活動 に関わることで、全体的な 環境への意識向上につな げていく。</p> |

| | | | | |
|-----------------|--------------------|--|--|--|
| 社外環境保全・啓蒙活動への参加 | テクノ会環境保全委員会への積極的参加 | <ul style="list-style-type: none"> ・テクノクリーンデー（毎月）・拡大クリーンデー（年2回）の実施 ・その他テクノ環境保全委員会の取り決め事項の履行 | <ul style="list-style-type: none"> ・テクノクリーンデー：毎月工場内「環境の日」に実施、拡大クリーンデー：6月・12月実施済 ・各種取り決め事項を順次実施済 | 全件予定通り実施済。工場内「環境の日」のクリーンデー実施は08年度から継続、従業員の環境意識高揚へ繋がっている。 |
| | 工場クリーンデーの開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・工場クリーンデーの開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・8月実施済（全員参加） | 終日全従業員で工場内の清掃を行う。11年度も継続実施し全館の換気扇・エアコンフィルターの一斉清掃をする。 |
| | その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・工場則面の草刈り・植木剪定の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・草刈り（7・11月） ・植木剪定（11月） | 予定通り実施済。 |
| その他 | 化学物質の管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・化学物質使用量把握 | <ul style="list-style-type: none"> ・化学物質に該当する商品の年間購入量（10年2月～11年1月）調査、1月棚卸時保管量の調査（2月） | 10年度分より第1種に限らず、製造工程で取扱う全て化学物質の計上を開始。11年4月以降、全社の使用量を把握していく。 |
| | 包装の簡素化 | <ul style="list-style-type: none"> ・B2製品のオビ・バンド廃止継続 | <ul style="list-style-type: none"> ・輸転品番・B2製品についてムジ・名入・ユーザ直送分に関わらず、輸転品番・B2A式透明テープのオビ・バンド廃止、B2カプセ・B2A式がムテープのオビ廃止継続 | B4オビ・B2オビ使用出荷分の削減を引き続き行っている。 |
| | 環境関連設備の改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・污水处理施設の設備更新 | <ul style="list-style-type: none"> ・污水处理施設の「排水処理反応層」・「脱水設備」交換工事実施済（12月） ・「水中ポンプ」交換済（2月） | 3F断熱材未施行エリアの施行を進めていき、空調効率アップと作業環境の改善を図っていく。 |
| | 事故・災害への準備と訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・訓練の定期実施 ・緊急時手順書の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・避難・消火訓練（5月） ・異常水発生時対応訓練・低圧漏電時の対応訓練・污水处理設備自動停止時の対応訓練（7月） ・各種訓練実施に伴い、手順書の修正実施済 | 全件予定通り実施済。 |
| | 環境法令の順守 | <ul style="list-style-type: none"> ・法規制の変化に対する手順確立 ・法規制等登録簿への登録と対応 ・法規制特定施設一覧表の作成と届出管理 ・マニフェストを元に産廃の処理管理継続 | <ul style="list-style-type: none"> ・現地審査時、審査人様へ情報確認を行う（7月） ・登録簿の作成と対応実施済 ・騒音・振動規制法、水質汚濁防止法の該当特定施設一覧表作成済 ・2011年度に届出漏れ施設の新規届出、未使用施設の取消届出実施予定 ・産廃処理委託契約書・産廃業者許可証の有効期限切れ・契約期間超過分、保管漏れ分の確認と入手（8月） ・「産廃管理票交付等状況報告書」を毎年6月の提出要請済 | 各種法令に該当する特定施設について、施設毎の届出必要性・届出処理の有無を管理していくため、特定施設一覧表を作成。今後新設・廃棄した設備についても一覧表にも記録し、確実な管理を行っていく。10年度分の産廃マニフェストの管理、契約書・許可証類の整備も実施済み。 |

| | | | | |
|-----|------------|---|--|---|
| その他 | 環境知識・意識の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・エコ検定受験者累計 70% 以上へ ・全体研修での外部講師講演・イベント開催 ・他社工場見学 | <ul style="list-style-type: none"> ・2008年度～3年間で合計 73 名受検（受験者累計 57%） ・特別講師としてエコアクション 21 外部講師を招いての講演実施、エコドライブの勤め・エコイズ等イベントも実施（6月） ・マロニー(株)様の工場見学実施、環境活動への取組状況・実績についても説明頂く（6月） | <p>全体研修では外部講師をお招きし、09年版ガイドライン改定に伴う変更点や、ホットな環境ネタ等貴重なお話をご教授し、従業員への環境意識向上に繋がった。また、定番となったエコイズやその他新規イベントも実施済み。11年度も、趣向を凝らしてより有意義な研修会を行う。</p> |
| | 内部監査の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による内部監査講習の受講 | <ul style="list-style-type: none"> ・各部より内部監査人を選出し、内部監査の進め方に関する講習受講（3月） | <p>2011年度より年2回の内部監査を実施していく。初回は7月の予定。</p> |
| | 有機溶剤の削減 | <ul style="list-style-type: none"> ・オフセット印刷課の有機溶剤使用量削減 | <ul style="list-style-type: none"> ・IPA アルコール使用量テスト実施、6% 3%に削減可能（前年比 2～3 割減見込）（7月） | <p>業者に協力を仰ぎ、含有量の少ないものに順次変更していく。</p> |

環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

| 適用される法規制 | 適用される施設等 |
|--|--|
| 消防法（危険物） | ガソリン・灯油・油性インキ・IPA アルコール |
| 消防法（指定可燃物） | 製品在庫 |
| PRTR 法 | 第 1 種指定化学物質・・・届出不要 |
| 三田市火災予防条例 47 条 | ボイラー（不使用）・変電設備 |
| 下水道法 北摂三田テクノパーク公害防止協定 8 条 | 除害設備 特定施設（自動式フィルム現像洗浄施設・自動式感光膜付印刷版現像洗浄施設） |
| 水質汚濁防止法 兵庫県環境の保全と創造に関する条例 | 特定施設・・・届出不要（自動式フィルム現像洗浄施設・自動式感光膜付印刷版現像洗浄施設） |
| 廃棄物処理法 北摂三田テクノパーク公害防止協定 | 産業廃棄物（鉄くず・廃プラ・紙くず・混合物・汚泥・ウエス・産廃カレンダー） |
| 騒音規制法 北摂三田テクノパーク公害防止協定 8 条 | オフセット印刷機5台・チャリンコ17台・台紙自動機1台・カプリ6台・コンプレッサー1台 |
| 騒音規制法 兵庫県環境の保全と創造に関する条例 | オフセット印刷機5台・チャリンコ17台・台紙自動機1台・カプリ6台・エアコン室外機6台・エアコン室内機2台・グラインダー5台 |
| 振動規制法 兵庫県環境の保全と創造に関する条例 北摂三田テクノパーク公害防止協定 8 条 | オフセット印刷機5台・カプリ6台・コンプレッサー1台 |
| 労働安全衛生法 | 安全衛生管理者の選任 安全衛生委員会の設置 |

カプリ：半自動社名刷込機、チャリコ：手動社名刷込機

環境関連法規制等の順守評価の定期評価の結果、環境法規制等の逸脱は有りませんでした。なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

2010年度活動総括と2011年度（来年度）取組み

09年度環境報告書（レポート）の中で10年度取組みとして掲げさせて頂きました『事務局の増員』『新環境管理責任者の選任（代表者との分離）』『エコ検定の他事業所拡大』『汚水処理装置や天井断熱材増設等の環境系設備更新の推進』『六甲山系整備事業への参画』については計画通り実現させ、環境マネジメント能力・従業員の環境意識・環境インフラ等の向上や強化と環境社会貢献活動の拡大を実現出来ました。

10年度各種環境目標、そして実施計画においては、最重要目標である二酸化炭素削減（省エネルギー）で活動開始来初めての昨対+4%という結果に終わってしまいました。

記録的な酷暑で空調電力が増加した事が主因では有りますが、来年度は09年度実績を下回る事を目標に活動の見直しと強化を行っていきます。

最も注力した環境社会貢献活動の拡大では有馬富士公園森林整備活動の継続以外に六甲山・長田地区 34,000 m²の区画を新しく当社森林整備活動地として活動を開始し社会貢献のステップアップが図れたのは評価出来るものと考えています。

11年度においては大地震による電力事情の悪化も有り、総括で述べました二酸化炭素削減（省エネルギー）と本社を含む他事業所のE A 2 1 認証取得や合併申請の全社的拡大を必達目標に掲げた環境活動を展開してまいります。

また環境方針に示した7目標全ての11年度実施計画を達成する為にも環境に関する教育・訓練スケジュールの充実、三田工場でのエコピープル（エコ検定合格者）50%超拡大、他社との交流機会の拡充等も行い活動の活性化やレベルアップを図っていきます。

昨年度に引き続き、脱地球温暖化社会実現に微力ながら貢献出来ますように鋭意努力してまいります。

代表者 奥村 豊



環境に配慮した
さまざまな取り組みを
行っています。



六甲グリーンベルト整備事業



環境の日ステッカー



エコ検定受検



三田 本社間 燃費競争



ベジタブルインク使用登録



エコキャップ回収BOX